

第5回岡谷市基本構想審議会

会 議 録

【出席者】

○委員(12名)

太田博久 委員、太田深穂 委員、小口泰史 委員、笠原新太郎 委員、小林妙子 委員、
齋藤博子 委員、薩摩建 委員、中村進 委員、中村文明 委員、新田隆史 委員、
林幸夫 委員、横内文雄 委員

(※欠席者…今井誠 委員、上沼隆弘 委員、唐澤剛 委員、高見澤恒子 委員、
武田彰 委員、中畑聖二郎 委員、中山昇 委員、山崎舜次 委員 以上8名)
(五十音順)

(説明者)

○担当部課(23名)

岩垂企画政策部長、小口総務部長、尾張産業振興部長、百瀬市民環境部長、
山岸建設水道部長
白神税務課長、小口危機管理室長、大下消防課長、木下工業振興課長、
師岡商業観光課長、伊藤ブランド推進室長、小松農林水産課長、中村市民環境課長、
小口都市計画課長、山田副技監、古川土木課長
藤木税務課主幹、商業観光課大槻主幹、商業観光課原主幹、農林水産課笠原主幹、
農林水産課柄澤主幹、ブランド推進室伊藤主幹、小林主幹

(事務局)

企画課	課長	岡本典幸
	副技監	山岡泰一郎
	統括主幹	松村佳江
	主幹	宮坂征憲、味澤勝一、清水亮、秋山仁志、野田康裕
	主査	新村尚志
	主事	水澤優馬

第5回岡谷市基本構想審議会 会議録

平成30年10月19日（金）
午後2時00分～午後4時00分
市役所8階 全員協議会室

1 開会

市民憲章唱和

2 会長あいさつ

3 議題

(1) 部会審議 第1部会

企画課主幹	<基本目標「人が集い、にぎわいと活力あふれるまち集い」について概要説明>
部会長	施策が全部で6つある。順番に審議をしていく。1施策あたり7分を目安に審議を進めたい。 「政策7 産業の振興」の「施策7-1 工業の振興」について、ご意見、ご質問をお願いしたい。
部会長	工業の振興の成果指標である粗付加価値額はどのように算出し、何を表すと捉えればよいのか、お伺いしたい。
産業振興部長	企業の会計でいうところの粗利と似た概念。粗付加価値額については売上の中から仕入れを差し引いた金額で、会社ごとにどれだけ付加価値を出したかという金額である。企業の稼ぐ力として一般的に用いられる指標であり、工業の振興に関してもこの指標が妥当であると考え、KPIとして設定した。
部会長	岡谷市全体としては、これが上がると活性化ができていくという指標としては、ひとつの判断の目安となるという認識でよいのか。
産業振興部長	そのとおりである。
0委員	課題の2番目、経営者の高齢化が進み小規模企業を中心に廃業を検討する企業が多くなっているとのことだが、最近、M&AのDMが会社に送付されてくる。工業だけではなく商業も同じような状況であり、全ての業種が同様であると思う。主な取り組みのなかで、この課題に対する取り組みとしたらどのようなことがあるのか。
工業振興課長	工業については、経営者の高齢化が進んでいる。この5年間は現・工業活性化計画のなかでアンケートをとり、60代以上の経営者の方が大変多くなっている状況であり、そうした方を対象に4年間で360社ほど訪問した。これに併せて60代、70代でまだ後継者が決まっていなかった方を中心に再度調査を行った。傾向とすれば、企業規模が小さいほど、廃業の可能性が高くなっている。これを何とか食い止めたいたいということで、調査では後継者の可能性があるかどうか、設備の状況、受注先の状況、仕事の中身、工場、動産としての調査、そうしたものを全てが最初に引き継がれると良いが、そのい

	<p>くつか、可能性を沢山引き継げるようなマッチングが必要であると考えている。</p> <p>新しい工業活性化計画策定にあたり、アンケートをとる中では、途中経過ではあるが、そうした廃業を検討する企業を引き継ぐ意思があるか、という中では3割近くの企業が引き継ぐ可能性有り統計も出ている。今後はそうした出会いの場をさらに深めていきたい。事業承継については税制とか専門家ではないと入り込めない点があるため、そうした点は金融機関や税理士、支援機関と協力していきたいと考えている。</p>
0 委員	<p>自助努力で企業が自分でやらなければならないことではあるが、良い技術があるのに次に引き継げない。個人の努力も必要だが、公共団体の方で調査だとかいろいろ進んでいけば良いと思う。特に力を入れて頂きたい。</p>
産業振興部長	<p>国では事業承継について税制にかなり注力しており、最近ようやく補助金メニューもできた。何より大事なものは、問題の本質をつぶさに見ること。税制は委員ご指摘のとおり企業の中でどのように引き続くか、そこで費用負担を和らげる取り組みだが、その前段階、今どのような状況にあって、どこに相談するのか、というのが一番大きな問題であり、この部分が地方自治体としても取り組むべき一番のポイントである。</p> <p>工業振興課で取り組んでいるところは、紛れもなく事業承継のいの一番でやっていかなければならないところ。この5年間の最重要課題として取り組んでまいりたいと考えている。</p>
0 委員	<p>ぜひお願いしたい。</p>
N 委員	<p>今の話の続きとなるが、金融機関でも国から事業承継、企業を減らしてはいけないと、指示が来ている。長野県の事業引継ぎセンターとかインターネットでも無料でM&Aのマッチングだとか、どこの金融機関でも積極的に推進している。市と協力しながらやっていきたい。</p> <p>87ページの主な取り組みの1番目、企業立地の推進で、「未利用地や工業適地の掘り起こし」とあるが、顧客から工場用地を探してほしいと言われる機会が多い。岡谷市内で探しているとなかなか準工業地域で空いているところが見つからないという現状で、他の地域を探してくれ、と言われることが多い。工場適地の掘り起こしというのは、どれくらいの可能性があり、具体的にどのようなことをする予定なのか、伺いたい。</p>
工業振興課長	<p>狭隘な市域のなかで市街化が進んでいるが、探してみると空いているところがある。ただ、所有されている方もいるため、所有者の方にも協力いただけるように、現地調査も含めて取り組んでいきたいと思う。用途地域についても関係課と相談して対処していきたいと考えている。</p>
N 委員	<p>経済事情も良くなってきているため、企業も用途地域の変更を待っている時間がないのが現状だと思う。引き続きよろしくお願いしたい。</p>
K 委員	<p>施策展開の方針の中で「集積するメリットを最大限生かした」とある。この地域の素晴らしさを出した方針を掲げているが、主な取り組みの中でどの項目が、この方針に関わってくるのか。そうした点が明確に見えるとういと思うが。</p>
産業振興部長	<p>施策展開の方針の「メリット」に関しては、どれか1対1というよりは、主な取り組み全てであると考えている。この地域の工業を振興していく上で、産業集積の強みは切っても切り離せないところ。個社ベースでの強みもある</p>

が、工業活性化対策の推進のなかで言えば「高い技術力の集結」という点がこの地域の立地競争力にも繋がる。連携を強化していく中で個社ベースの問題でだけではなく、この地域のマクロの問題として捉えて対策を打つことができれば、リードタイムの短縮にもなると思っている。記述に関しては読みにくいところがあるかもしれないため、その点に関しては修正を含め検討したいと思うが、工業振興の中では、産業集積というところ先ず前面に出していく、切っても切り離せないものであるため、この取り組みの中についても全てかみ合わせてやっていきたいと考えている。

E 委員

技術的な集積地ではあるが、超零細企業の割合が多い状態。そうした企業をこれからどうするかが一番大きな課題。それに対して、はっきりした路線を出していかないといけない。

第4次岡谷市総合計画の際には人手不足に関することが出てこないが、ここに来て、景気が回復してきて急に人手不足が生じてきている。

経団連が就活の見直しを表明しており、Uターンしてくる人がいなくなってしまう。そうした事実を見据えて、何らかの策を練っていないと、Uターンの可能性がさらに低くなってしまう。

根本的に工業に従事する人たちの見直しをしなければいけない。

第4次産業革命といわれるように日進月歩で進化し、AI化が進み、どの程度進むかも分らない。AI導入について、超零細企業では非常に難しい。大企業だけがAIにより自動化をすることになる。商業でもキャッシュレス化が進み、レジの仕事が不要になる。そうした人たちを工業人材として育成するため、再教育の充実を図ることが重要な課題になると思う。

AI化の進展により、先に商業の人たちの仕事が減少していくのではないかと考えている。

F 委員

人は小売・サービス業は足りなくて困っている。自動レジや無人レジなどが登場しているため、人手不足をどのように解消していくかが大きな課題。

E 委員

外国人労働者が岡谷の工業を支えているのも現実。外国人労働者の受入を進めていくことが人手不足の解消にもなる。そうした点を5総の中で考慮すべきかと思う。

ミスマッチングが非常に勿体ない。ミスマッチしないように、製造業に関わる人材を育てていくことが、工業まちおこやとして一番重要だと思う。

工業振興課長

市内企業を見ると、それぞれ役割がある。市内の中核的企業が日本全国、世界から仕事を獲ってきて、それが市内の製造業に分かれている。それぞれの企業とのつながりで成り立っているため、零細企業がなくなってしまうと、岡谷市として経済に障害がでる部分、そうした部分を失わないようにしていかなければならない。取引先や技術を含め、機械化できない部分を担って頂いている部分も多い。国も地域の経済を活性化する企業を支援していこうという考え方でやっている。そうしたことがシャワー効果でプラスに働くような取り組みをしていきたいと思っている。

ミスマッチングについては、インターンシップ、ものづくりフェアで子どもたちに体験していただくことで、今日も部長に訪問していただきましたら、小学校5年生の時のものづくり体験したことが心に残り、その会社で工作機械を操作しているという事例が、いろんなところから聞こえるようになってきているため、そうした事例を増やす取り組みをしていきたいと思っている。

E 委員

ぜひお願いしたい。

部会長	時間の都合もあるため、発言がある場合は全体審議の際にお願いしたい。続いて「施策7-2 商業・サービス業の振興」について、ご意見、ご質問をお願いしたい。
F委員	第4次岡谷市総合計画について、どのように自己評価しているか伺いたい。
産業振興部長	第4次岡谷市総合計画と第5次岡谷市総合計画を見比べると大きく変更はないところからも、4次で掲げたものに関して具体的な数値でというのは申し上げづらいが、十分に達成できているというところはまだまだ少ないと考えているため、その反省をベースに5総で取り組んでいきたいと考えている。
F委員	第4次岡谷市総合計画を改めて読むと、このなかでどのくらいの実現できているかという部分で、非常に物足りないというのが正直なところ。PDCAのなかで、どの程度のことがされてきたのか、非常に不安である。今回の第5次を読むと、現状を踏まえて課題を押しさえ、そして取り組みも、十分かどうかはともかく、取り組みとしては間違っていないと思うが、これが本当に今回も実現できるのか、危惧せざるを得ない。アンケート結果を見ると、若い人も一般の方も商業の振興に非常に期待している。行政ができることをしっかりやっていただきたいが、そうした面で第5次を文面だけ読むだけでは、大丈夫かなと思わざるを得ないところ。そうした中で、第4次の反省を踏まえ第5次がどのように進められていくのか、どのように計画を立てて実行して、そして検証して、また変えていくのか、そうした点がこの中では読みきれない。どのように考えているか。
産業振興部長	進められるかどうかについては、昨年度一年間かけて取りまとめたいただいた商業環境調査の結果というものも行政としては真摯に受け止めなければならないところ。まさに調査結果が今後の商業振興を行っていく上で、データとして、アンケート結果として出てきたものだと思われるため、そこも真摯に受け止めなければならない点。他方で、それを頂いてから半年間の間で何らかのアクションをしていけば、笠原委員のご指摘のいくつかにはお答えできると思っているが、その点について進んでいないのは、申し訳ないと思う。商業・サービス業の振興に関しては個別計画が出ていないが、商業環境調査というひとつの大きなまとめをしていただいたものもあるため、そこから1つずつ実施可能なもの、あるいは優先的に取り組むべきものを整理して、PDCAを回すには、土台となる皆さんの中で共有して進めていく指針が必要になると思われるため、5総と個別計画と合わせて準備し、商業関係者との議論を進める中で、施策を5年、10年進めていきたいと考えている。
F委員	ここに個別計画が掲載されていないが、商業活性化計画のようなものを策定していただきたい。今回それが実際に進んでいくとすれば、この中にも個別計画として商業活性化計画を掲載すべきだと思うが、どのように考えるか。
産業振興部長	繰り返しとなるが、頂いてから半年間空白にしてしまった。本来であれば頂いて直ぐに計画策定に着手すれば、この段階で個別計画として掲載することができたものの、作業が遅れているため、現状では盛り込めていないところ。これから来年の2月まで5総の策定作業が続くため、そのプロセスの中で商業活性化に向けた計画についても、ここに掲載する目処が立てば、掲載すべきだと考えている。総合計画と個別計画の往復の中で取り組むことが市としての方針であるため、そうなるように個別計画策定にも取り組みたい。

F 委員	<p>第4次について物足りないとお申し上げたが、そのためにも個別計画として、今まで商業活性化計画的なものがなかったため、ぜひ盛り込めるような方向で進めていただきたいと思う。</p> <p>指標について、年間販売額の2018年度の数値が1,111億円とあるが、現状・データのグラフでは平成28年の実績値であると思うが、どうか。また、この数値には、2年前にオープンした大型商業施設の売上が含まれているのかどうか、知りたい。</p>
商業観光課長	<p>平成28年経済センサスの結果が今年度公表されたため1,111億円となっている。大型商業施設の売上は含まれている。</p>
産業振興部長	<p>補足となるが、経済センサスに関しては、その年度中に商業活動が行われたものに関しては基本的に把握されているため、年度途中で開業したものに関しても統計当局が把握している範囲の中に入っているため、大型商業施設の売上についても含まれている。</p>
F 委員	<p>28年7月にオープンしたので、年度のため10か月分が含まれているという解釈でよいか。</p>
産業振興部長	<p>そのとおり。</p>
F 委員	<p>年間販売額の把握の仕方について、地域のお店の売上が伸びていくことが岡谷市の商業への支援としては一番あるべき姿だと思う。地域店の売上を把握することができれば、それを成果指標とすれば良いと思う。できるようなら検討をお願いしたい。</p>
産業振興部長	<p>先ほどご指摘いただいた、30年度の1,111億円が28年度と同額である点については再度確認を行い、ミスがあれば修正をさせていただく。地域店に関しては、個別にヒアリングなりで対応すれば分ると思うが、難しい点もある。ご指摘をどのように反映させるか、検討したい。</p>
F 委員	<p>大型商業施設の売上が入っていないとすれば、たぶん80億とか目標100億と言われているので、その数字が反映されていないと、5年後の数字が低い数字になると思うため、しっかり検証していただきたい。</p>
N 委員	<p>商業では主な取り組みに「創業者の支援」が掲載されているが、工業では創業者支援に関するものが掲載されていない。また成果指標に創業者数も設定されていない。商業の創業者支援件数について、業種の内訳が分れば岡谷市の特徴が出てくると思う。分れば教えていただきたい。</p>
商業観光課長	<p>業種の内訳については、最近は飲食店や美容室・ネイルサロンなどサービス業が主な傾向。</p>
工業振興課長	<p>工業でも主な取り組みの1点目の中で新規創業支援に積極的に取り組むとしているが、成果指標に設けることは考えていないが、検討してまいりたい。</p>
N 委員	<p>ハードルが高い分、ぜひとも目標にさせていただければ。意見だけです。</p>
部会長	<p>振興補助金での創業支援は工業にもあるということですのでよろしいですね。</p>
工業振興課長	<p>そのとおり。</p>

部会長	<p>続いて「施策7-3 農林漁業の振興」について、ご意見、ご質問をお願いしたい。</p>
0 委員	<p>遊休農地に対する主な取り組みについて、発生抑制と農地利用の最適化の推進の中に、ランドデザイン的なものはあるのか。やりたいことをやってもらえればよいのか。</p>
農林水産課長	<p>課題として示しているが、農業に関しては不利な地域である。また山の近辺では農地が荒廃している状況にある。大きな農業者としての新規就農を期待することは難しいと思っている。そうした中で、定年退職後の農業への関わりや就農、市民農園・研修農園等から農業を深めていただいて、大きな収益はないが直売所に農産物を出荷していただけるような新たな農業者の拡大を考えている。また中核的な農業者については、新規就農者も出ており、後継希望者もいるため、しっかりと支援を行い、中核として残したい。そこが大きな方向性。茅野、原、富士見と比べると農家1つの面積は1/10程度、どんなに稼いでもわずかであり、そこはなかなかめざせない。こじんまりとしてでも多少なりとも収益を上げながらきちんと農業を継続できるような体系をつくりたい。山に関しては地主が不在でわからないということで施業が進まないところが残っている。この点に関しては、国が新たな森林管理システムということで、所有者が山林経営をできないところは市に経営権を委託していただき、市が管理をしながら森の整備を進めていくという新しい方向性が出てきたため、そうした部分を活用しながら整備を進めてまいりたい。また岡谷市では大きな面積をしっかりと維持している組織もあるため、連携をとりながら進めていきたい。樹種については、林業経営に詳しい方に依頼し、所有者の方とも相談するなかで経営方法について検討を進めてまいりたい。</p>
0 委員	<p>岡谷小学校の跡地について、観光に結びつけられるような、まちづくりのひとつとして活用することを検討していただきたい。</p>
農林水産課長	<p>岡谷小の跡地については、法面の工事は土木課で行っているが、最終的な管理は農林水産課で行う。課の中でもどのように活用すべきか議論している。</p>
E 委員	<p>主な取り組みの4番目に「湖内環境の改善」とあるが、湖周や県と連携で取り組まなければならないこと。いろいろ掲げているが、岡谷だけ掲げても活動ができない。具体的なものを入れないと、絵に描いた餅になる。</p>
農林水産課長	<p>湖周での取り組みについては、2市1町に県と漁協が加わった協議会を設け、そこで対応を検討し、実際に実施している。また県では、諏訪湖再生ビジョンを策定し、県で貧酸素化の調査等をしていただきながら、漁協と協力して実施している。記載が足りない部分があるが、実際に連携して取り組んでいることもあるため、記載については検討したい。</p>
部会長	<p>続いて「政策8 地域資源の活用」の「施策8-1 ブランドの振興」について、ご意見、ご質問をお願いしたい。</p>
F 委員	<p>主な取り組みの3番目に「地域おこし協力隊」とあるが、現状について伺いたい。</p>
ブランド推進室長	<p>「地域おこし協力隊」は国が行っている施策であり、都市部の人材を地域で受け入れ、一定期間居住していただく中で、地域ブランドや地場産品等の開発・販売・PRなど地域おこしの支援をしていただくもの。地域協力活動</p>

	<p>を行いながらその地域への定着を図る取り組みとなっている。岡谷市では今年度から地域おこし協力隊2名の募集を行っている。来年度から養蚕や製糸、製品化の部分などに携わっていただき、岡谷ブランドの核となるシルク商品の確立や情報発信に取り組んでいただく予定である。</p>
F 委員	<p>市民ではなく、市外から呼ぶ人ということでよいか。</p>
ブランド推進室長	<p>基本的には都市部となっている。都市部から田舎に入り、地域資源の発見から行っていただくという考え方。</p>
F 委員	<p>旧市役所庁舎は歴史的建造物として、岡谷ブランドを発信するには非常にふさわしい場所。市役所が移転してから良い使われ方をしていない。費用も掛かるため簡単にはできないが、ぜひ何らかの取り組みを行うべきだと考える。</p>
産業振興部長	<p>旧庁舎を含めた近代化産業遺産群の活用については、岡谷市に限らず多くの自治体で同様の課題に直面している。国でもそうした施設の活用方法に関して一定の指針を出している。旧庁舎の活用については、維持・保全を行いながら、またどのように情報発信していくかということも必要になるため、国の指針を参考にしつつ、どのような活用が適切なのかという点も含めて、今後検討してまいりたい。</p>
F 委員	<p>市役所が移転して、消防庁舎になり、それからさまざまに使われている。第5次の中ではコンセプトというところまではもって行ってほしい。ブランドを活かせる場所だと思う。</p>
K 委員	<p>ブランドブックをみると、湖畔がすごく綺麗になるイメージとなっている。成果指標では2023年度までに28件中20件まで終了となっているが、主な取り組みの中では湖畔周辺に関するものが項目としてない。前期では湖畔に関して手を入れないのか。</p>
ブランド推進室長	<p>大変重要な部分。アクションプランの中に「美しい湖畔を体験できるまちへ」という部分があり、ハード整備とソフト整備を予定している。民間事業者等によるハード整備があるため、計画としては、ソフト整備を中心に考えている。また、県によるサイクリングロードの整備も予定されている。市でも自転車の取り組みを進めているため、スタンドの整備を行っている。必要な部分であるため、前向きに進めてまいりたい。</p>
部会長	<p>続いて「施策8-2 観光の振興」について、ご意見、ご質問をお願いしたい。</p>
O 委員	<p>現状に記載のとおりだと思う。そうした中で情報の発信が難しく、ホームページをつくれれば誰かが見てくれるというものでもないし、東京のTV局が来てくれるものでもない。情報の発信はSNSを含めこれから難しくなっていく。4総の時にはインスタグラムなど存在しなかったことから、5年後も恐ろしく変化していると思われる。情報発信の研究と実行に注力していただきたい。</p>
産業振興部長	<p>日進月歩の世界であるため研究に関しては重要だと思うが、他方で足元をやっていくということも大事である。情報の発信に関してはシルクファクトでもtwitterのフォロワーを募集するなり、市でも取り組んでいるため、まず今の歩みを着実に進めるとともに最先端の方向で、なおかつ多くの観光客</p>

	<p>の方に来ていただける、要は情報が大量にあるため、拾っていただく工夫も必要であるため、研究してまいりたい。</p>
K 委員	<p>課題の中に、観光資源をさらに発掘するという点と、情報発信がある。観光資源の発掘はその人たちにとって良いものなのかどうか。特にインスタ映えしたことが口コミでひろがり、人が殺到することがある。発掘は外の目が重要。住んでいるから「こんなもの」という思いを崩さないと見つからないという意味では、そういう人たちを上手く取り入れて発掘させることにより、結果としてその人たちが勝手にSNSで情報発信して広がっていくということを考えれば、海外の人が日本を見る目は、日本人が見る目と全く違うため、あえて外国人を招聘して発信も含めて発掘してもらおうということにも取り組んでほしい。</p>
部会長	<p>続いて「施策9-1 働く環境の充実」について、ご意見、ご質問をお願いしたい。</p>
F 委員	<p>KPIの「新入社員激励会参加者数」について、この計画の成果指標として見るにはどうなのか。4月に1日だけ開催するイベントの参加人数を以ってこれをはかるというのは相応しくないのではないか。どうしてこの指標としたのか。</p>
工業振興課長	<p>市内企業へ就職していただいた人数を把握するためのひとつとなる指標。市内企業に就職した者の実態をつかめない状況の中で、労務対策協議会に加盟されている企業を中心に、激励会には参加していただけるので、この数値を上げていくことで、岡谷市内への就職が上昇できると思いい、指標として設定した。</p>
F 委員	<p>これが象徴される数字として捉えて良いのか。ここには平成30年度の実績値しか出ていないため、この前の数値がわかると理解につながる。</p>
工業振興課長	<p>平成26年度124名、27年度153名、28年度142名、29年度154名という状況。景気回復に伴い少しずつ増えてきている。30年度は経済状況が良くなるなかで、新卒者の減少や大手志向などから人数が減少している。これが市内企業への就職者数を把握するための数値になっており、これを増やすことが大事であると考えている。そのために大学訪問をしたりインターンシップをすすめたりして、つなげていきたい。ここに成果が出てくると捉えている。</p>
F 委員	<p>根拠となり得る数字なら良いが、これだけ見ると「これでよいのか」と思ってしまう。これしかないとすれば、理解した。</p>
K 委員	<p>主な取り組みの「人材の育成・強化」という面で、要約されているため「など」に含まれているかもしれないが、ものづくり技術的な面を強調している感じを受ける。サービス業も含めてだったり、人材の定着、辞めないという部分でいうと、技術面だけではなく人間力、基礎的な部分ところも育成していかないといけないのが現状。そうした部分も「など」に含まれているのか。もし含まれていないのであれば、そうした点に対するフォローを考えていただければ定着につながると思う。</p>
工業振興課長	<p>人間力と部分については、我々の講座の中でもリーダーシップ力の発揮の仕方とか、財務会計を理解していただき経営幹部になっていただけるような講座を始めたりしている。単純に技術だけに偏らないような考え方で進めて</p>

K 委員	いる。
工業振興課長	表記していただくと、サービス業の方も少し活用できると思う。
部会長	検討したい。
E 委員	時間も過ぎているため、基本目標「人が集い、にぎわいと活力あふれるまち」については以上とさせていただきたい。最後に全体を通して、ご発言があればどうぞ。
産業振興部長	テクノプラザおかや、非常に駅に近く良い場所にある。その横に駐車場として使っているラオカヤ。このあり方を考えていかないと、テクノプラザおかやの利用者は駐車場として使用している。今の状態だと、雨漏りがしていたり、決して万全な体制ではないのが原因だと思う。今後のあり方はどの部署で考えているのか。
部会長	ラオカヤを含め公共施設の問題に関しては、企画政策部主導で取り組んでいる。企画政策部の中で公共施設の床面積とか検討を行っているが、ご指摘のとおり、それに伴ってテクノプラザ来場者の方の不便があってはならないため、企画政策部と産業振興部で連携して、なるべく利便性を損なわないようにしつつ、市の財政運営にも配慮して取り組んでいるところ。総合計画の中でも盛り込まれており、個別の計画でも検討が進んでいるため、そちらの方で取り組んでいく。
企画課主幹	何かあれば、この後の全体審議で、ご発言させていただきたい。では、事務局でまとめを簡単をお願いしたい。
部会長	沢山のご意見をいただいた。この会でのやりとりについて全体審議で発表したいと思うが、施策ごと、はじめにご質問いただいたり、答えがあった部分について代表的なものとして発表させていただき、他の部分についてはホワイトボードを見ていただくことにより進めさせていただきたい。
部会長	以上で、部会審議を終了します。

(2) 部会審議 第2部会

企画課主幹	<基本目標「安全・安心で、自然環境と共生するまち」について概要説明>
部会長	<p>施策が全部で5つある。順番に審議をしていく。1施策あたり8分を目安に審議を進めたい。</p> <p>政策10の安全対策の推進の施策10-1危機・防災・減災対策の推進と消防力の強化について、ご意見、ご質問をお願いしたい。</p>
R 委員	<p>4総の基本目標3に自然環境と暮らしが調和した安全・安心なまちのなかで政策8に循環型社会の構築として施策が2つあるが、これは、清掃工場や火葬場ができたため、KPIが100%ということで、5総に掲載がないという理解でよいか。</p> <p>また、4総の政策9「安全・安心な暮らしの確保」のなかで、「治山治水事業の推進」、「消防救急体制の充実」、「上下水道の整備・維持」の3点が5総に掲載されていないが、KPIが100%という判断でこの部分が抜けているということよいか。</p>

部会長	今、施策10-1の範囲だが。
R委員	101ページの部分が、4総と対比した時に異なるため伺いたい。
部会長	政策に掲げられた部分の全体的な質問ということでよいか。
R委員	そのとおり。
市民環境部長	ご指摘のとおり、クリーンセンターが稼動し運用しているため、5総には完了したということで、掲載していない。
部会長	林委員、よろしいですか。
R委員	はい。 治山・治水、消防の関係はどうか。
総務部長	治山・治水については、国・県と連携して市が行っていく部分。5総については、終わったということではなく、永遠に続くものである。103ページの主な取り組みの1点目の中に「公助」とあるが、公助は市が行うべきものであり、この公助のなかで実施していくことで集約を行った。実際の施策については、毎年行う予算付けのなかでこうした点が見えてくる。 消防に関しては、平成27年4月から常備消防については諏訪6市町村による広域化となっており、消防庁舎の完成や消防体制などを踏まえ、5総には掲載していない。
R委員	102ページの課題の2点目中で、「災害時における「避難準備」、「避難勧告」、「避難指示」に関する情報の確実の伝達」ということの中で、特に高齢者や一人暮らしの家だと、市の防災無線や防災ラジオを聴いて最初の情報を得ている。これが市の取り組みの中で、「自主防災組織の充実と情報伝達の強化」のなかで、防災無線などの見直しを行ってほしい。地域の方からの声が多い。 先日も豪雨の中で夜中に防災無線が流れたが、聞こえない。そうすると、防災ラジオに頼るしかないが、市内できちんと受信できているのか、できていないのか、不安である。
総務部長	大変重要なことである。主な取り組みで「市民への直接的な方法による緊急情報の確実な伝達に努めます」と記載しているが、この部分を捉えて、伝達方法、防災ラジオの受信状況、スマホや携帯へのメール配信など、情報伝達の充実について、毎年の事業の中へ盛り込んでいきたい。 抽象的な表現になっているが、施策であるためこのような表現になっている点をご理解いただきたい。
R委員	高齢者の方々に対する安否確認や避難誘導などについて、各地域の地域サポートセンターの活用を図ることを施策の中に盛り込んでいただきたい。また、消防団組織の強化という点について、消防団の統合という問題に対する考え方は。
総務部長	災害時においては、高齢者や障がいのある方、小さな子どもなどの要配慮者については、災害時において、ご自身からその時に助けてもらいたいと手を挙げていただき、地域のみなさんでサポートしていただく体制を構築しているところ。具体的な施策の部署としては、社会福祉課で行っており、毎年、予算化等を行っている。ご指摘の点については引き続き対応していきたい。

	<p>消防団の統合については、消防団にお聞きするなかでは、現在の段階では統合について話は出ておらず、今後の課題であろうという認識でとどまっているところである。消防団組織の強化に関しては、消防団員の確保、なかでも特に若い方の加入を考えているところ。そうした施策を進める中で、今後検討していく内容と考えている。当面、この5年間において具体的に統合を表に出して行っていく考えはない。</p>
J 委員	<p>課題の中で、「防災資機材の整備」とあるが、4 総には「備蓄品の整備」や「災害用トイレの整備」と載っているが、この点に関しても整備されたため5 総に掲載されていないのか。</p>
総務部長	<p>災害時に必要になるものとして、特にトイレについては全国で発生している災害状況をみると、一番大切なものであると考えている。食料品などは救援物資として届くが、トイレが届くことはほとんどなく、地域で解決しなければならないもの。岡谷市ではマンホールトイレの整備を順次進めている。各区においても、簡易的に使用できるトイレを計画的に用意していただき、市でも助成を行っている。</p> <p>個人の方々が先ず防災用品を用意し、不足するものは区で対応し、さらに大きなものは市で対応し、それでも足りなければ全国から支援を受ける形で考えている。全員分を何日分そろえるというのは現実問題不可能な部分がある。最初は個人のところから始めていただきたい。そういったPRをこれから積極的に行わなければいけないと考えている。</p>
部会長	<p>次に、「施策 10-2 生活安全対策の推進」について、ご意見、ご質問をお願いしたい。</p>
Q 委員	<p>この施策について、個別計画はないのか。</p>
市民環境課長	<p>この分野に関して個別計画はない。</p>
Q 委員	<p>何もなくて、問題はないか。</p>
部会長	<p>個別計画が撫ぜないのかということか。</p>
Q 委員	<p>そのとおり。</p>
市民環境部長	<p>この施策については、個別計画を特に設けず、それぞれの施策を行っている。個別計画を策定することなく、それぞれの事業を実施している。</p>
Q 委員	<p>それぞれの事業とは、主な取り組みのことを指しているのか</p>
市民環境部長	<p>前期基本計画には主な取り組みしか掲載していないが、実際には交通安全対策事業や特殊詐欺に対する対策などやっている、実際のそれぞれの業務では具体的な取り組みを行っており、計画を設けずに事業を推進している。</p>
部会長	<p>105 ページの主な取り組みの3 番目の後半部分に「防犯灯のLED化を促進するなど」とあるが、年度から言うと既に今年で完了するのではないか。</p>
市民環境課長	<p>LED化事業については、平成29年度から市の施策として3年計画として取り組んでおり、来年度までに電球型をLEDに交換する予定。また、防犯灯自体は区で管理をしていただいているが、そちらに対する補助金でもLED化を推進しているところ。30年度で終了するものではない。</p>

R 委員	105ページの主な取り組みの2番目の「交通安全施設の整備」について、資料5の「高校生まちづくりアンケート」並びに資料6の「市民アンケート調査」の中で、「住みにくい」という項目において、交通の便が悪い、道が割れている、交通事情が悪い、湖畔公園に行くにも道が整備されていないので子どもたちだけで行かせることができない、といった声がある。こうした点を、交通安全施設に入れるべきなのか分らないが、こういったアンケート結果に対する施策はどこに含まれるのか。
建設水道部長	道路の点に関しては、116ページ、「施策14-1 幹線道路と交通網の整備」の中で、都市計画道路と生活道路の維持管理について記載している。このため、「施策10-2 生活安全対策の推進」とは分けて考えているため、よろしくお願ひしたい。
部会長	次に「施策11-1 自然環境の保全」について、ご意見、ご質問をお願ひしたい。
I 委員	松くい虫に対する初動対応について、感謝したい。
部会長	1点確認したい。4総では地球環境対策が一つの項目として一番はじめに記載されているが、5総では自然環境の保全の中に入っている。さらに4総では、地球環境対策のなかの最初の項目に地球温暖化防止が掲げられているが、5総ではまとめられてしまっている。この点について何か意図はあるのか。
市民環境課長	前期基本計画策定の基本方針的な部分として、なるべくシンプルにとの話があったかと思う。この考え方の下で、自然環境という括りのなかに地球温暖化防止を掲げることとした。決して軽く見ているわけではない。現状、課題、主な取り組みの各項目において、地球温暖化対策を最初に掲げており、非常に大きい課題であると認識している。市の施策だけでは難しい点もあるなかで、自然環境の保全の中に掲げさせていただいた。
部会長	個人的に地球温暖化対策に取り組んでいるため、非常に寂しい思い。107ページの主な取り組みの2番目、「ヒシの除去による諏訪湖の環境改善」とあるが、ヒシの除去をすることによって諏訪湖の環境改善を行うと受け止めて良いのか、それともほかに意味があるのか。
市民環境部長	ヒシの除去による諏訪湖の環境改善については、諏訪湖のワカサギが大量死したことが数年前にあったが、ヒシにより低酸素状態にある諏訪湖の水質の改善等を考慮し、ヒシの除去を記載している。ヒシの除去だけで環境改善するということではない。
部会長	毎年、ヒシの除去を市民環境課で実施しているが、2時間程度で回収できる量はわずか。デモンストレーションとしては良いかもしれないが、根本的に県や諏訪市、下諏訪町、漁協などと連携してヒシを除去するなどの取り組みが必要ではないか。施策の中にそうした観点を盛り込んでいただければありがたい。
市民環境課長	ご指摘のとおり。現在、岡谷市として実施しているヒシの除去は年1回であり、約160名の方に参加していただき、8トン程度回収している。舟に乗って湖上に出ないと回収することができない。岸からでは難しい。漁業協同組合の絶大なる協力の上に成り立っている事業であり、漁業協働組合の負担増加という点から、回数を増やすことができない状況、重労働ということ

	<p>もある。そうした中で、市としては、あくまでも諏訪湖の管理は県であるため、県に対する要望を随時行っているところ。県では昨年度、刈取船により約1,000トンを超えるヒシを除去した。今後も逐次、県に対して要望してまいりたい。</p>
R 委員	<p>主な取り組みの2番目、「身近な里山の保全」について、地域で「里山の会」を組織し、間伐などを行っているが、そうした事業に対する補助などが今後施策としてあるのかどうか。また、3番目に「環境教育」とあるが、4総を見ても内容がよく分らない。どのような教育を行っているのか。</p>
市民環境課長	<p>里山の保全に対する補助は、市民環境課では行っていない。環境教育については、市民環境課だけではなく教育委員会などさまざまな部署が関わってくる。例えば「緑の少年団」をはじめ、市民環境課で行っている「岡谷子どもエコクラブ」の活動やカルチャーセンターの「エコクラブ」のほか、出前講座やエコクッキングなど、いろいろな場面でごみ問題も含め取り組んでいる。こうした活動全般を環境教育としている。</p>
部会長	<p>91ページの主な取り組みの中に、森林の整備として「森林機能に応じた適正な施業による森林資源の維持造成」とある。市では森林計画に基づいて、市と区で計画をして整備を行っている。</p>
R 委員	<p>以前、補助を貰った記憶がある。施策としてどのような状況だったかと思いい質問した。</p>
部会長	<p>全額補助事業で、計画に基づき実施している。その分ではないか。</p>
部会長	<p>環境教育は大事な部分である。学校などで若い人たちに地球温暖化を説明する機会として取り組まれているが、できかねる部分があると思っている。</p>
市民環境課長	<p>先ほどの答弁に漏れがあった。環境セミナーやシンポジウムなど講演会活動も環境教育として位置づけているので、お願いしたい。</p>
R 委員	<p>もう少し分かりやすい表現はないのか。行政の人は理解できても、市民は分りにくい。</p>
市民環境部長	<p>検討したい。</p>
部会長	<p>次に「施策11-2 生活環境対策の推進」について、ご意見、ご質問をお願いしたい。</p>
Q 委員	<p>「資料・データ」について、不法投棄に関して28年度まで10件未満で推移していたものが、29年度が17件に跳ね上がっているが、そもそも不法投棄の定義を伺いたい。また、17件に跳ね上がった理由と、KPIを10件としているが、17件を10件に落とすのが妥当なのか。不法投棄はそもそも犯罪。分りにくい場所に捨てていくのが不法投棄だとしたら難しい問題だと思う。「資料・データ」の数値とKPIの設定についてまず伺いたい。</p>
市民環境課長	<p>ここでの不法投棄の定義は、市民の方やパトロールしている方からの通報により市が処理したものや、警察に通報した件数である。細かい点を言えば、タバコのポイ捨ても該当するが、そうしたものは把握していない。28年度から29年度について10件増えているが、その背景について分析は行っていないため、明確な理由は分らない。一般的に考えられるのは、引</p>

	<p>越しの時のごみ処理に困ったことなどが想定されるが、分析はできていない状況。</p>
Q 委員	<p>増えた傾向からすると、市内のごみなのか、他から持ち込まれて見えない幹線道路沿いに捨てられたものなのか、どのような状況で17件となっているのか。</p>
市民環境課長	<p>不法投棄をした人が分る場合は良いが、一般的には不明であるため、市外なのか市民なのか分らない。</p>
Q 委員	<p>燃やすごみの処理量について、27年度から29年度の実績をみると、人口は減少しているのにごみの量が減っていないのはなぜか。ごみは岡谷だけのごみか。またKPIは減らす目標となっているが、どのように減らしていくのか。</p>
市民環境課長	<p>岡谷市内の燃やすごみの量は、平成22年の有料化により大幅に減少し、その後は漸減。現在は、家庭系のごみは減少傾向にあるが、事業系は伸びている傾向が見受けられる。事業系は景気に左右される点もあろうかと思う。そうした分析をしているところ。 KPIについては、個別計画である、諏訪湖周2市1町で策定した「ごみ処理基本計画」における数値を引用している。平成28年3月時点における将来推計として算出し、前期基本計画で用いている。</p>
D 委員	<p>岡谷市のごみの値段が他市に比べて高いが、その理由はなにか。また、日本のプラごみは中国に輸出されているとのことだが、現在、中国では輸入しないとの話になってきている。岡谷市のプラごみはどこにいつているのか、教えていただきたい。</p>
市民環境課長	<p>ごみの処理料については、平成22年の有料化を実施する際に決めた金額であり、そのまま値上げ、値下げせずに現在に至っている。当時の近隣市の状況や、処分費用を基に算出したものである。同じ組合で処理している下諏訪町は若干安く、諏訪市は無料だが現在有料化を検討しているところ。 プラごみの処理については、専門事業者に処理を委託している。詳細な資料を持ち合わせていないため、確認後に回答したい。</p>
R 委員	<p>主な取り組みの「ごみ処理の広域化の推進」について、「ごみ処理の広域化を推進します」とのことだが、組合ではどこまでを広域化としているのか。</p>
市民環境部長	<p>処理自体は広域化を行ったが、これからは湖周で行っている分別等もなるべく統一していこうとする動きもある。簡単にはいかないが、各自治体の状況を見ながら分別の方法を統一していきたいと考えている。また、収集もそれぞれ自治体ごとに行っているが、広域単位で収集していきたいと考えている。</p>
部会長	<p>「広域化」という表現について、一般的に違うものをイメージしてしまうため分りにくい。今説明のあった点を文章化していただいた方が分りやすい。</p>
市民環境部長	<p>文章の表現については検討したい。処理については自治体ごとに専門事業者に委託しているが、広域化という観点から、処理も同じ事業者委託し、リサイクル費用も抑制していきたいということも広域化に含まれている。</p>

I 委員	<p>プラごみについて、岡谷市は洗って出すようにとされているが、水質汚染の方が、被害が大きい。プラごみは高温で溶かすため汚れていても問題ないという学者の話聞いたことがあるが、洗わなければいけないのか。</p>
市民環境課長	<p>プラスチック容器包装リサイクルのプラスチックであるが、汚れているものは分別してプラごみにしないで頂きたいとお願いしている。洗っていただくか、汚れているものは燃やすごみにしていただきたいと、お願いをしているところ。汚れたものを洗剤で洗って捨てるということは、水質的な環境負荷もあるため、そうしたことはお願いしていない状況ではある。</p>
部会長	<p>108ページの現状の3番目に「ごみの分別が定着した」というような表現があるが、定着はしているが、区の最前線をみると、分別ができていない部分はかなりあるのが現状。「定着」という言葉になるとできているように捉えられるが、実際は違う。例えば主な取り組みの6番目にある「衛生施設の維持管理」はルーティンワークであるため、わざわざ記述せず、ごみ処理に対する記述を記載したらどうか。</p>
市民環境課長	<p>ご意見を参考にしながら精査したい。</p>
部会長	<p>次に「施策12-1 居住環境の充実」について、ご意見、ご質問をお願いしたい。</p>
R 委員	<p>「第5次岡谷市総合計画策定に関わる市民インタビューの結果」の中の8ページに、「夫の実家のある岡谷に土地を購入して家を建てたが、自分の実家のある辰野町とどちらにするか迷った。やはり岡谷・下諏訪は土地が高いと感じる。土地の取得に関する助成があるとうれしい」との声がある。土地の取得に対する助成について、税金を2年ぐらい免除するなど、そうした施策を市の取り組みの中で検討されているか、お聞きしたい。</p>
都市計画課長	<p>住宅の土地の取得自体に対する補助金や支援は、現在はない。岡谷市域の土地の値段が高いことは前からの傾向であるが、そういう意味では、ある意味ポテンシャルの高い地域であると思っている。辰野町と岡谷市という比較になればそのような見方になるが、地価の高いところにお住まいになるということは、ご負担いただく必要があると思っているため、ご理解を頂きたい。</p>
R 委員	<p>人口減少もあるため、なるべく他のところから来ていただく方には、施策でカバーしていく必要があると思うが、如何か。</p>
建設水道部長	<p>ご指摘のとおり、移住の部分では補助金という考え方もあり、実際にやっている村・町もある。しかし、市のレベルで実施することとなると、相当な財政負担を伴う。今後の課題として検討はするが、今のところは考えていない。</p>
都市計画課長	<p>主な取り組みの2番目で、居住環境の形成として、「親世帯と子世帯の同居や近居」については支援策を考えていきたいと思っている。</p>
Q 委員	<p>住環境の整備という点で、政策13の部分で4総と比較すると、4総では土地利用、住宅利用というのが1つの項目としてあり緻密に書かれているが、5総では、土地と住居を分けて、住居の部分が政策12に入っているという解釈でよいか。だとすると、成果指標が住宅の耐震だけ書かれていて、住環境の充実みたいなものがないような気がするが、それはなぜか。</p>

都市計画課長	<p>5 総策定の基本的な方針に下で、ここでは住まいに関することについて網羅したという考え方。指標については、数値的なものとして表しやすいものが耐震率であると考え、指標として捉えている。アンケートみたいなもので、ということであれば1 項目指標として考えてみたい。</p>
Q 委員	<p>1 2 で住宅政策を謳うのならば、目標としてはあったほうが良いのではないかと思う。冒頭の部分で空き家の問題や市営住宅の問題が出てくるが、それが最終的な取り組みや目標にどのようにつながるのか、非常に見えにくい。人口が減少している中で、この部分が弱いと感じる。</p>
建設水道部長	<p>居住環境の充実という点では、課題として考えられるものは空き家が増加している点、耐震化が進まず安全性が保たれていない点を課題として考えている。その中で、成果指標については、耐震化を進めていくという指標を目標として設けている。ご指摘のとおり、居住環境の充実という点について、どのような指標で表すかとなると、アンケート調査の数値しか出しようがない。ご指摘いただいたため、検討させていただきたい。</p>
都市計画課長	<p>1 1 5 ページの「施策 1 3 - 1 計画的土地利用の推進」になるが、この成果指標として市民アンケートによる「住宅・宅地の整備に関する市民の満足度」を指標としている。これと居住環境の充実は密接に関係するところである。土地利用に着目した指標として考えているが、施策 1 2 - 1 の成果指標についても市民アンケートによる適切な指標があれば、そこを含めて考えていきたい。</p>
Q 委員	<p>住宅と土地は分けにくいと思う。今回、分けた意図があると思うが、住宅の部分が施策 1 3 - 1 に入っているとすると、項目として居住環境を施策 1 2 - 1 で掲げているため、4 総と比べて分りにくいと思う。</p>
建設水道部長	<p>先ほど申し上げたとおり、市の課題として空き家とか耐震化が際立った問題であると考えているため、抜き出した形として分けさせていただいた。そうようにご理解を頂きたい。</p>
I 委員	<p>市営住宅について、どこに何戸あり、その居住率を知りたい。また、空き家対策を視野においているが、ハザードマップ等で見える危険な地帯に居住されている方の、建て替えや新築計画に対して、指導等は行っているか。</p>
都市計画課長	<p>市営住宅の居住について、管理戸数は6 2 0 戸。詳細な資料を持ち合わせていないため確実ではないが、居住しているのは5 3 0 戸程度だったと記憶している。</p>
建設水道部長	<p>家の建て替えとハザードマップの関係について、土砂災害特別危険区域になっている場所での建て替えについては、その場所から移動する場合、補助が出る。そのためには、現在住んでいる土地を売却しなければならないが、購入してもらうことができなければ、他の土地に移動できないという中で、制度を利用した人がいないというのが実情。</p> <p>土砂災害であるため、塀を作ることで可能となるため、基本的に塀を作ることで現在の場所に建て替えるというのが現実的な対応となっている。</p>
総務部長	<p>補足となるが、土砂災害特別警戒区域ということで、長野県は岡谷に限らず同じような地形であるため、山から土砂が流れてくる危険な場所として指定されているところが沢山あるが、県が設置を進めている砂防堰堤が再来年完成することにより、岡谷市においては、レッドゾーンと言われる特別警戒</p>

	<p>区域、最も危険であるところは、人家があるところについて一切無くなる。イエローゾーンは地形上外されることは無いが、砂防堰堤の完成により最も危ない箇所であるレッドゾーンがイエローゾーンに変わり、レッドゾーンは岡谷市内においてなくなる。そうした面では、他の市町村に比べれば、岡谷市内は安全な部分が確保できてくるということになる。砂防堰堤を造るためには何十億という費用が掛かるため、県でも予算を付けることが大変なところであり、長野県全体が同じような状況であるため、優先順位がなかなか回ってこないが、岡谷について言えば、安全の確保ができてきているというようにご理解いただければと思う。</p>
I 委員	<p>危険なところに住んでいる人について、空き家に移住してもらえればと考えた。</p>
部会長	<p>ご意見として捉えていただければ。</p>
都市計画課長	<p>市営住宅の入居状況について訂正したい。9月末時点の入居数は479戸となっている。</p>
部会長	<p>時間も来ているため、どうしても言っておきたいことがあればお願いしたい。</p>
市民環境課長	<p>プラスチックごみの行き先であるが、日本容器包装リサイクル協会関係の飯山の工場へ搬入し、その工場で溶かし、パレットにしているというところまで確認できた。中国への輸出については確認がとれていない。</p>
部会長	<p>この段階で部会としてのまとめをしていくこととなっているが、時間の都合で全体審議の中で発表していただく内容をこの場でのまとめに替えさせていただき、何か気づいた点があれば、全体審議の中でご発言を頂きたい。以上で、部会審議を終了したい。</p>

(3) 全体審議について

会長	<p>全体会議に移ります。最初に部会での審議状況について、事務局から報告をお願いしたい。</p>
企画課主幹	<p><第1部会 議題 基本目標「人が集い、にぎわいと活力あふれるまち」での審議内容について報告></p>
会長	<p>続いて、第2部会の報告をお願いしたい。</p>
企画課主幹	<p><第2部会 議題 基本目標「安全・安心で、自然環境と共生するまち」での審議内容について報告></p>
会長	<p>ただ今の報告について、補足、意見等あればお願いしたい。</p>
各委員	<p><特になし></p>
会長	<p>また何かあれば、質疑等連絡表を活用していただきたい。</p>
企画課主幹	<p>本日の審議会の議事録については、整い次第お送りさせていただく。確認をお願いしたい。 次回の審議会は10月26日(金)この場所で本日と同様の形で行っていく。</p>

会長	審議内容は、基本目標「快適な生活を支え、住み続けたいまち」、「みんなでつくる、確かな未来を拓くまち」についてとなる。 本日の議題は以上となる。
-----------	--

4 閉会

A 副会長	長時間に渡り、活発なご審議ありがとうございました。以上で第5回岡谷市基本構想審議会を終了とさせていただきます。
--------------	---